

2023年3月期 第2四半期 決算説明会

- I. 2023年3月期 第2四半期 決算概要
- II. 事業別の概況

2022年11月15日



三井住友建設

2023年3月期 第2四半期 決算説明会

I. 2023年3月期 第2四半期 決算概要

〔2022年11月9日公表〕

SUMITOMO MITSUI CONSTRUCTION CO.,LTD.

概要

上期

- 受注は土木/建築ともに堅調、海外で大型地下鉄工事を受注
- 前期に多額の損失を計上した国内の大型建築工事において、引当金を含む約62億円の損失を追加計上

通期

- 業績予想を修正
 連結売上高 4,550億円(前回予想比△100億円)
 連結当期純利益 20億円(前回予想比△ 60億円)

通期 業績予想修正の 主な理由

売上の減少

- 受注時期の遅れ、当初想定を下回る見通しとなった工事進捗

利益の減少

- 国内大型建築工事における更なる採算悪化
- 一部工事における資材価格等の上昇に起因する採算悪化

今後の対応

- 当該国内大型建築工事の採算改善に総力を挙げて取り組む
- 手持工事量と施工体制を鑑み、今期の受注目標を見直し
- 大型工事に対する応札前の事前審査の厳格化、
 施工初期段階における検討体制の一層の強化

上期の振り返り

市場

- 国内 ■ 公共:関連予算の執行により、底堅く推移した
- 民間:設備投資は持ち直し、住宅建設は底堅く推移
- 海外 ■ 緩やかな持ち直しが続き、当社進出諸国の建設投資は回復基調

当社

- 国内 ■ 土木:橋梁拡幅工事など得意のPC分野を中心に受注を確保
- 建築:住宅、物流施設などの注力分野で受注を確保
- 海外 ■ 最大目標であったフィリピンの大型地下鉄工事など受注を確保

通期の見通し

市場

- 国内 ■ 公共:引き続き底堅く推移していく見通しで、下期に出件多数
- 民間:先行き不透明感が残るものの、持ち直しの動きが続くと期待
- 海外 ■ 投資の回復基調は続くと期待されるが、世界経済動向には留意が必要

当社

- 国内 ■ 施工体制を考慮しつつ、採算を重視した受注活動を展開
- 資材・燃料価格の上昇は価格転嫁が進むが、引き続きリスク要因と認識
- 海外 ■ 社会情勢の変化と各国の状況に留意し慎重に取り組む

- 売上高：手持工事の順調な進捗により前期比増加
- 営業利益：個別における建築総利益の悪化が大きく影響

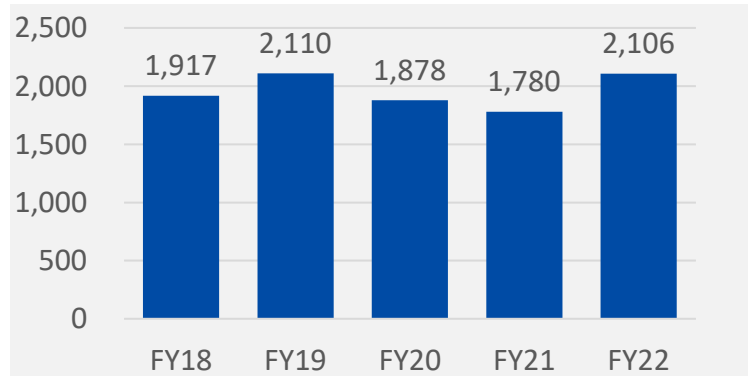
(単位：億円)

2Q実績	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22	前期比増減
売上高	1,917	2,110	1,878	1,780	2,106	+326
売上総利益	228	228	183	△31	143	+174
一般管理費	103	106	106	121	132	+11
営業利益	125	122	77	△152	11	+163
営業利益率	6.5%	5.8%	4.1%	△8.5%	0.5%	+9.0pt
経常利益	125	120	64	△152	11	+163
当期純利益(※)	88	79	35	△110	2	+112

※親会社株主に帰属する当期純利益

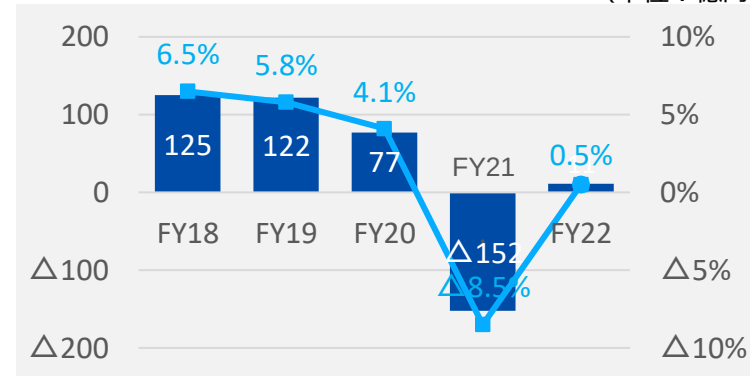
【連結売上高】

(単位：億円)



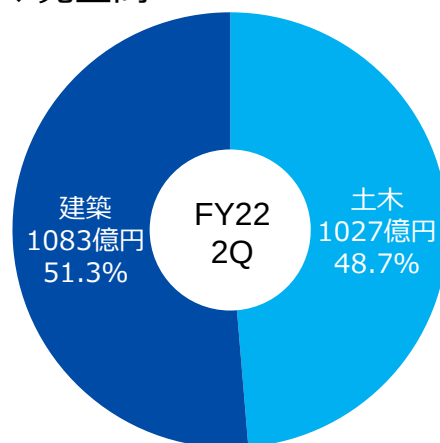
【連結営業利益】

(単位：億円)



- 土木：手持工事の順調な進捗により、売上高/利益ともに前期比増加
- 建築：売上高は増加も、国内大型建築工事の採算悪化が大きく影響

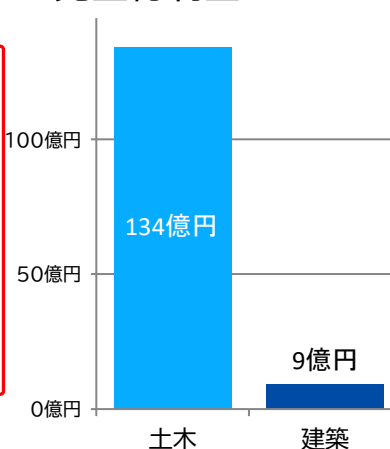
◆売上高



(単位：億円)

2Q 実績	FY20	FY21	FY22
土木	782	883	1,027
建築	1,094	897	1,083
その他	5	4	4
調整額	△3	△4	△8
合計	1,878	1,780	2,106

◆売上総利益

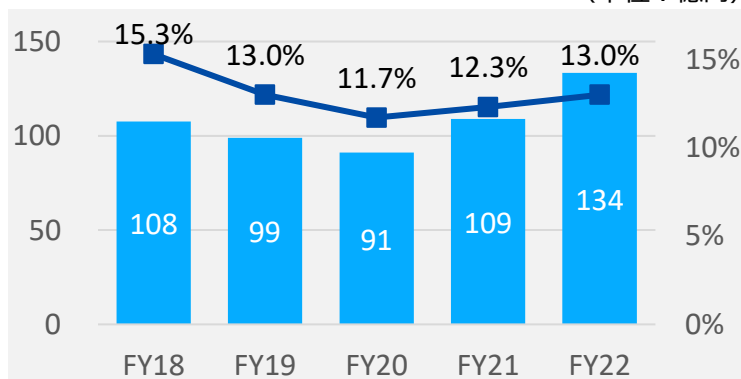


(単位：億円)

2Q 実績	FY20	FY21	FY22
土木	91	109	134
建築	90	△140	9
その他	2	0	1
調整額	△0	△0	△1
合計	183	△31	143

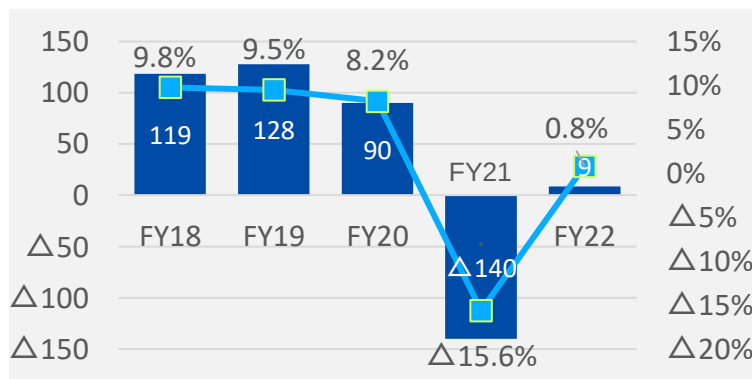
【土木：総利益・利益率】

(単位：億円)



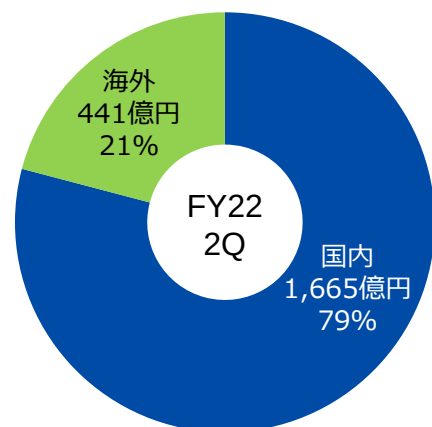
【建築：総利益・利益率】

(単位：億円)



- 海外：大型土木工事が順調に進捗し、売上/利益ともに前期比増加
当社の「成長ドライブ」として事業基盤の強化、規模拡大を目指す

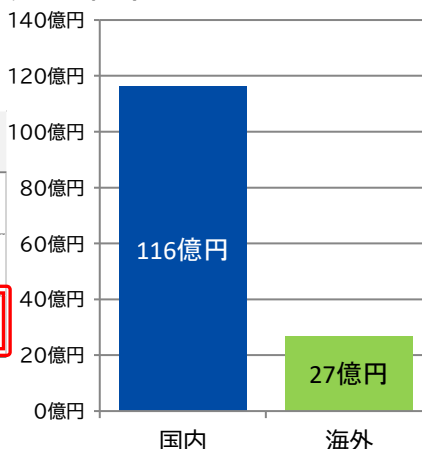
◆売上高



◆売上総利益

(単位：億円)

2Q 実績	国内	海外	(構成比)
FY20	1,578	300	(13%)
FY21	1,446	334	(19%)
FY22	1,665	441	(21%)



(単位：億円)

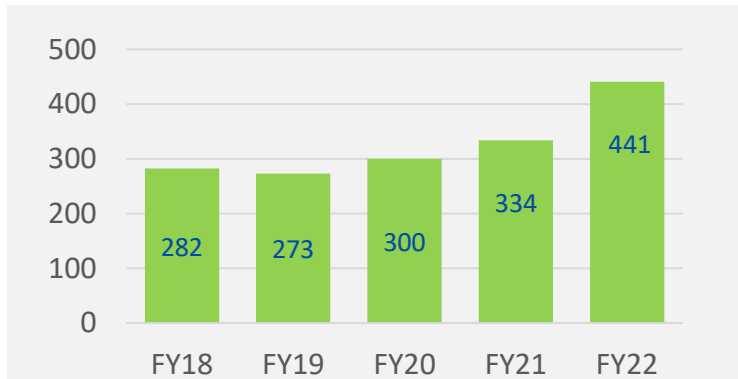
2Q 実績	国内	海外	(構成比)
FY20	170	13	(7%)
FY21	△49	18	-
FY22	116	27	(19%)

【国別売上高】

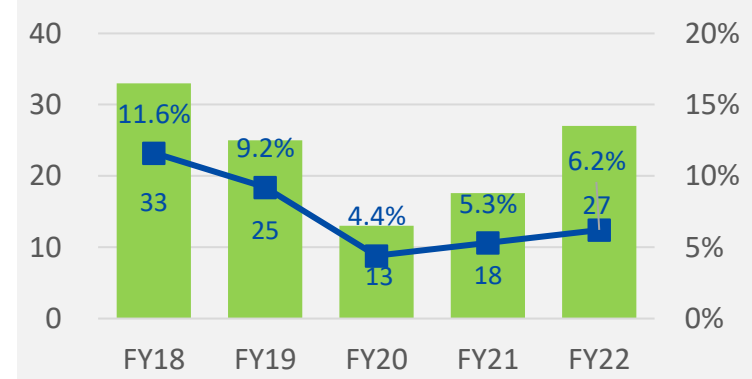
FY22-2Q

フィリピン	125
バングラデシュ	77
インド	54
インドネシア	43
その他地域	142
海外合計	441

【海外売上高】



【海外総利益・利益率】



- 建設受注高：国内は注力分野で堅調に受注を確保
- 海外受注高：フィリピンの大型地下鉄工事の受注等により前期比大幅増加

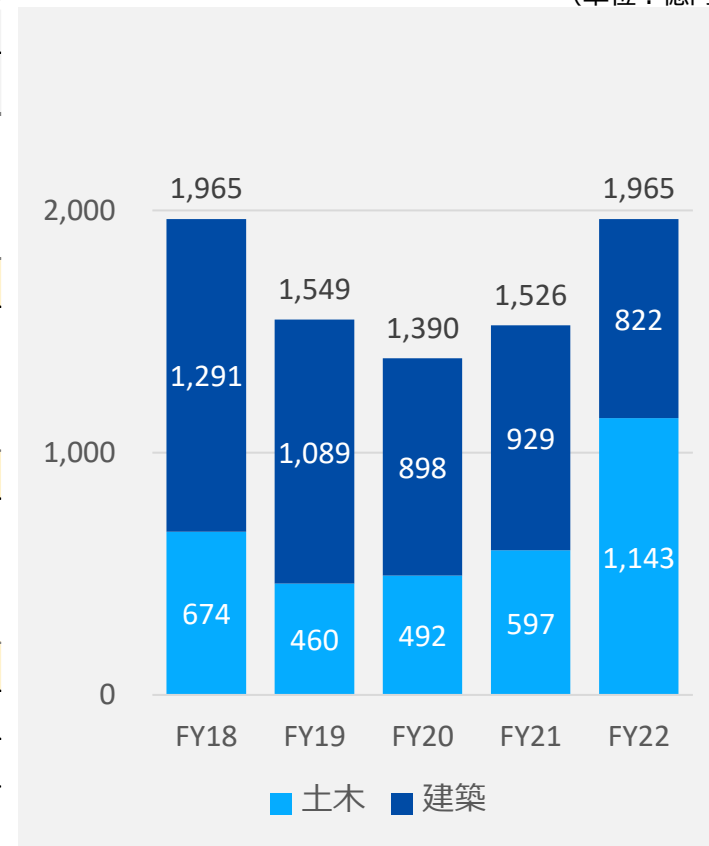
■ 受注高

(単位：億円)

	FY20	FY21	FY22	
	2Q 実績	2Q 実績	2Q 実績	前期比増減
国内官公庁	276	449	299	△150
国内民間	179	140	91	△49
海外	37	8	753	745
土木工事	492	597	1,143	546
国内官公庁	93	246	33	△213
国内民間	783	673	713	40
海外	22	10	76	66
建築工事	898	929	822	△107
国内官公庁	369	695	332	△363
国内民間	962	813	804	△9
海外	59	18	829	811
合計	1,390	1,526	1,965	439
海外(現地法人含む)	(126)	(89)	(1,000)	(911)

【受注高推移】

(単位：億円)



- 完成工事高：手持大型工事が順調に進捗し、土建共に前期比増加
- 繰越工事高：引き続き高水準で推移

■ 完成工事高

(単位：億円)

	FY20	FY21	FY22	前期比	
	2Q 実績	2Q 実績	2Q 実績	増減額	増減率
土木	596	617	715	+98	+15.9%
建築	890	736	868	+132	+17.9%
合計	1,486	1,353	1,583	+230	+17.0%

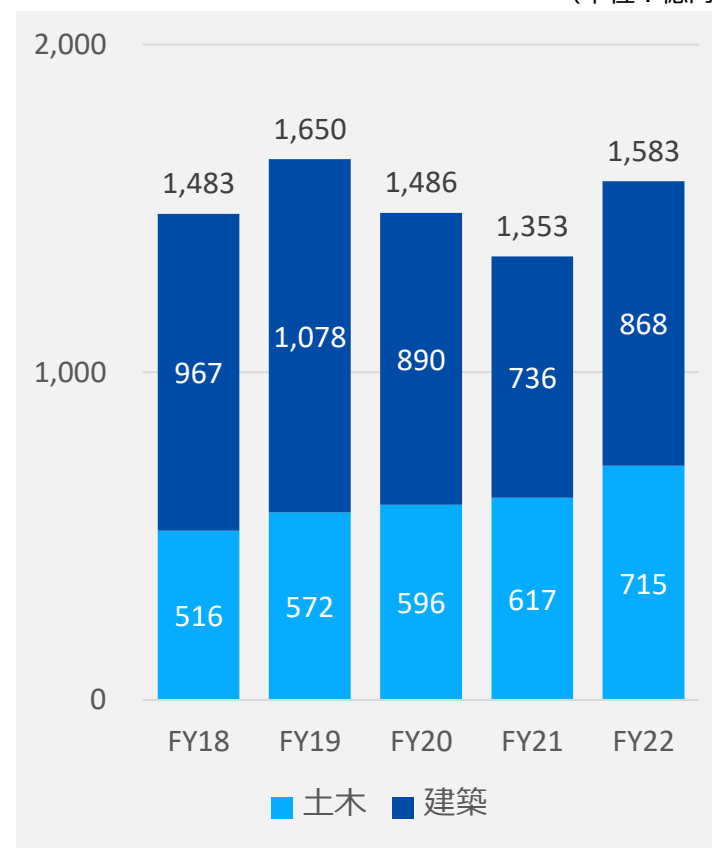
(参考) 繰越工事高の推移

(単位：億円)

	'21/9末	'22/3末	'22/9末	前期末比
	実績	実績	実績	増減額
土木	3,301	3,203	3,631	+428
建築	3,886	3,867	3,821	△46
合計	7,187	7,070	7,452	+382

【完成工事高推移】

(単位：億円)



08. 完成工事総利益《個別》

- 土木：完成工事高の増加と利益率の改善により前期比増加
建築：国内大型建築工事の採算悪化等が大きく影響し回復は僅少

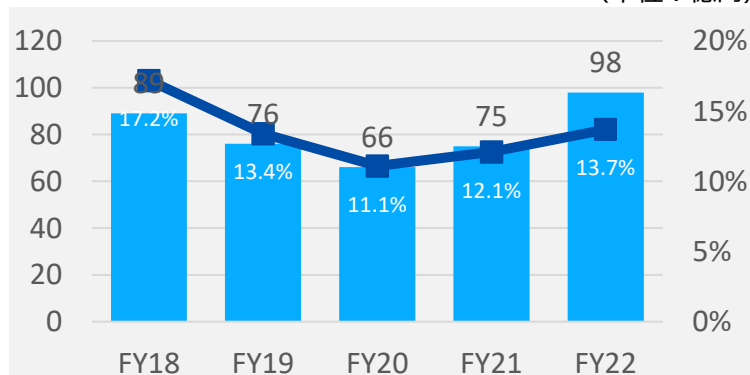
■ 完成工事総利益（総利益率）

（単位：億円）

	FY20		FY21		FY22		前期比	
	2Q 実績		2Q 実績		2Q 実績		増減額	増減率
土木	66	11.1%	75	12.1%	98	13.7%	+23	+1.6pt
建築	74	8.3%	△151	△20.6%	△4	△0.5%	+147	+20.1pt
合計	140	10.6%	△76	△5.6%	94	5.9%	+170	+11.5pt

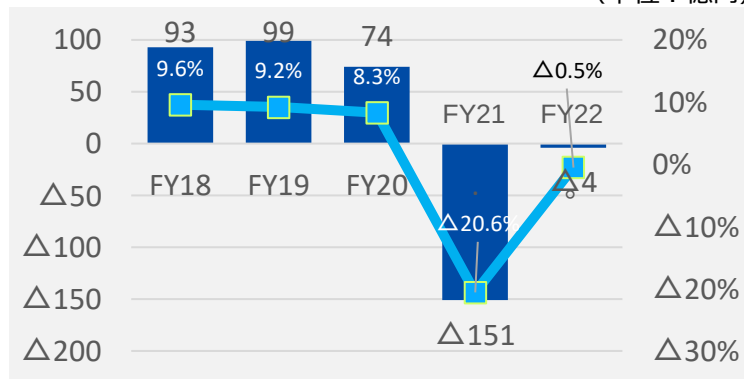
【土木】

（単位：億円）



【建築】

（単位：億円）



- 連結自己資本比率：借入金等総資産の増加に伴い低下
- 営業キャッシュフロー：工事関係の支出が先行しマイナス

■ 連結財政状態・キャッシュフロー

(単位：億円)

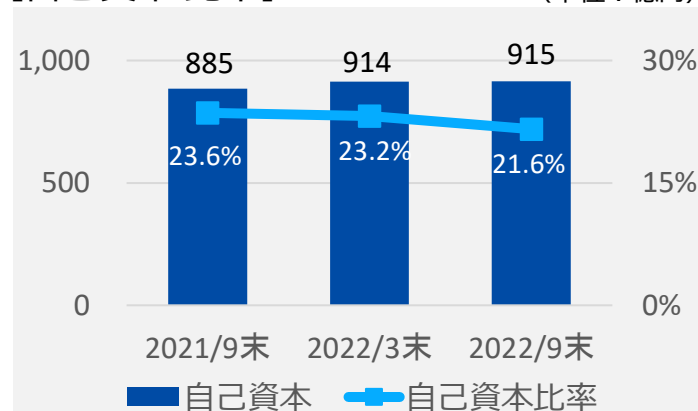
	2021/9末	2022/3末	2022/9末	
	実績	実績	実績	増減
資産合計	3,757	3,941	4,240	299
（現預金）	(651)	(710)	(627)	(△83)
負債合計	2,792	2,944	3,253	309
（有利子負債）	(854)	(648)	(1,094)	(446)
純資産合計	965	997	987	△10
（自己資本）	(885)	(914)	(915)	(1)
自己資本比率	23.6%	23.2%	21.6%	△1.6pt
ROE	△12.4%	△7.2%	0.2%	+7.4pt
営業C F	△266	100	△487	
投資C F	△21	△130	△32	
財務C F	187	△21	402	
期末現金同等物	594	651	550	

【連結貸借対照表概略図】



【自己資本/比率】

(単位：億円)



■ 2Q決算実績を踏まえ通期業績予想を修正

売上高：個別における建築売上高の減少

当期純利益：個別業績の見直しに加え、一部子会社の採算低下を反映

■ 連結業績予想

(単位：億円)

	FY21		FY22		増減(B-A)	【参考】	
	実績	前回予想(A)	修正予想(B)			上期	下期
売上高	4,033	4,650	4,550		△100	2,106	2,444
売上総利益	182	435	345		△90	143	202
一般管理費	257	275	270		△5	132	138
営業利益	△75	160	75		△85	11	64
営業利益率	△1.8%	3.4%	1.6%		△1.8pt	0.5%	2.6%
経常利益	△83	135	55		△80	11	44
当期純利益(※)	△70	80	20		△60	2	18

※親会社株主に帰属する当期純利益

10. 2023年3月期 通期業績予想《個別》

11

■ 2Q決算実績を踏まえ通期業績予想を修正

売上高：受注時期の遅れや、工事進捗が当初想定を下回ったことで減少

当期純利益：国内大型建築工事の採算悪化等が大きく影響

■ 個別業績予想

	FY21		FY22		(単位：億円)	
	実績	前回予想(A)	修正予想(B)	増減(B-A)	【参考】	
					上期	下期
売上高	3,044	3,363	3,263	△100	1,585	1,678
土木	156 (12.2%)	168 (12.3%)	168 (12.4%)	0	98 (13.7%)	70 (10.9%)
建築	△97 (△5.5%)	123 (6.2%)	43 (2.3%)	△80	△4 (△0.5%)	47 (4.6%)
その他	1	1	1	0	1	0
売上総利益	60 (2.0%)	292 (8.7%)	212 (6.5%)	△80	95 (6.0%)	117 (7.0%)
一般管理費	176	192	187	△5	85	102
営業利益	△116 (△3.8%)	100 (3.0%)	25 (0.8%)	△75	10 (0.6%)	15 (0.9%)
営業外損益	1	△13	0	13	10	△10
経常利益	△115	87	25	△62	20	5
当期純利益	△86	60	16	△44	16	0

11. 2023年3月期 受注目標《個別》

12

■ 2Q決算実績を踏まえ受注目標を修正

土木：海外大型工事の受注を受け、国内外のバランスを見直し

建築：施工体制が逼迫する中、手持工事への資源集中を優先

■ 個別受注高予想

(単位：億円)

	FY21		FY22		【参考】	
	実績	前回予想(A)	修正予想(B)	増減(B-A)	上期	下期
国内土木	1,105	900	800	△100	390	410
海外土木	58	350	750	400	753	△3
土木工事	1,163	1,250	1,550	300	1,143	407
国内建築	1,904	1,920	1,600	△320	746	854
海外建築	29	80	100	20	76	24
建築工事	1,933	2,000	1,700	△300	822	878
国内	3,009	2,820	2,400	△420	1,136	1,264
海外	87	430	850	420	829	21
合計	3,096	3,250	3,250	0	1,965	1,285

12. 2023年3月期 株主還元予想

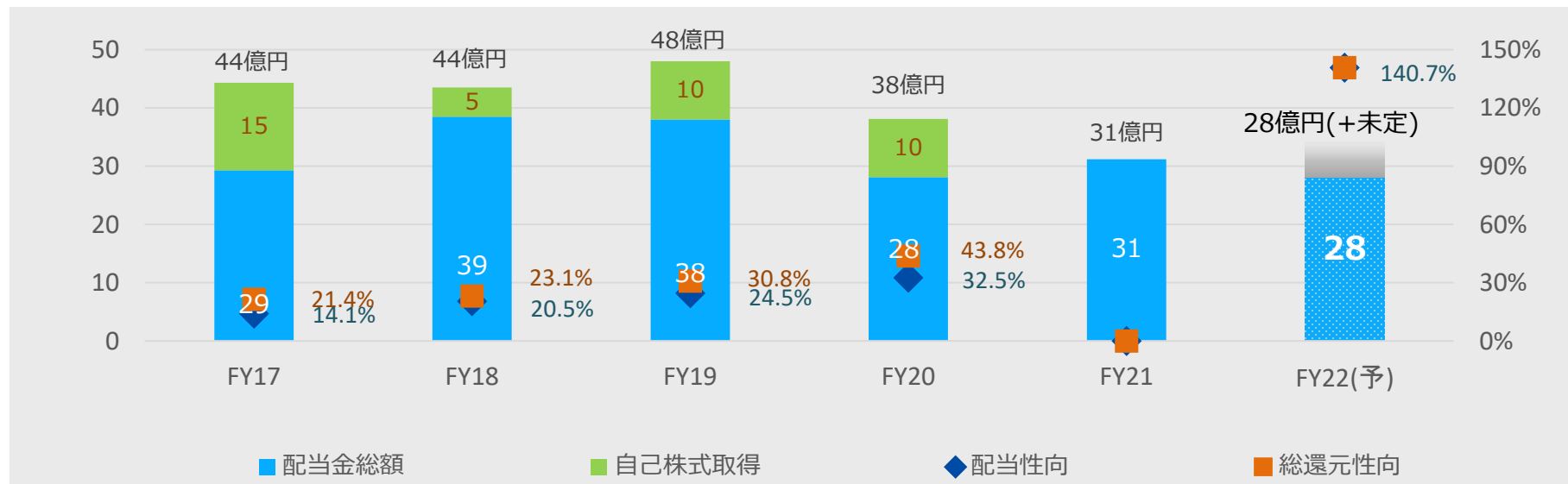
13

- 「中期経営計画 2022-2024」では、総還元性向50%を目安に、自己資本配当率（DOE）3%を下限值とした安定的な株主還元が基本
- 下限値(DOE3%)を踏まえ、配当予想を1株当たり18円(DOE3.1%)に修正

	年間配当金（円）			配当性向 (連結)	自己資本 配当率(連結)	自己株式取得 (億円)
	第2四半期末	期末	合計			
FY20	0.00	18.00	18.00	32.5%	2.9%	10億円
FY21	0.00	20.00	20.00	-	3.2%	-
FY22(予想)	0.00	18.00	18.00	140.7%	3.1%	(未定)

【配当性向・総還元性向の推移】

(単位：億円)



2023年3月期 第2四半期 決算説明会

Ⅱ．事業別の概況

SUMITOMO MITSUI CONSTRUCTION CO.,LTD.

注力分野の成果：大規模更新事業

☑ 大規模更新事業の床版取替工事を継続

今期受注案件(3件)

仲田橋床版取替工事

工事名：東北自動車道 仲田橋床版取替工事

工事概算数量：床版取替 約2,300m²

工期：2022/7～2023/12(18か月)

富士 I C～清水 I C間床版取替工事 (基本契約方式)

工事名：東名高速道路(特定更新等)

富士 I C～清水 I C間床版取替工事(2022年度)

工事概算数量：床版取替 約1,500m² 等

工期：2022/8～2026/8(48か月)

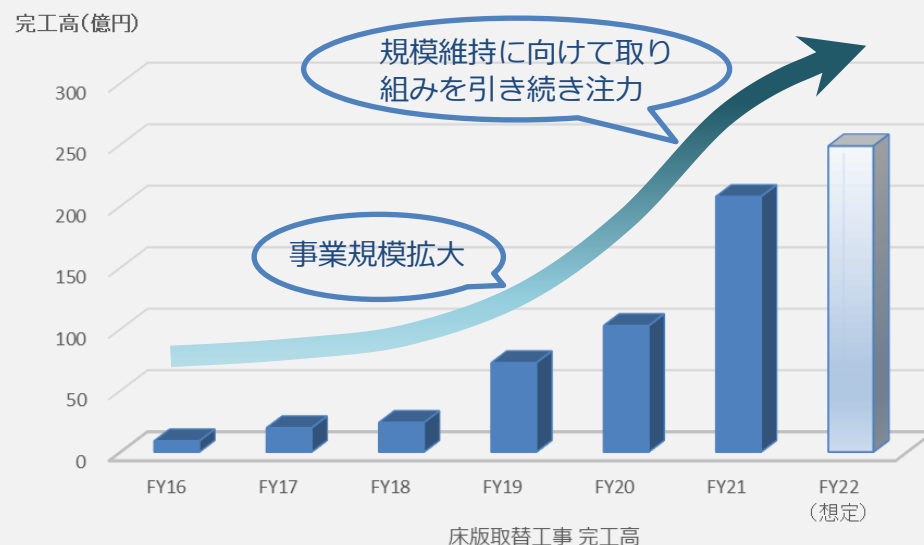
矢作高架橋床版取替工事

工事名：小田原厚木道路(特定更新等)

矢作高架橋他1橋床版取替工事(2022年度)

工事概算数量：床版取替 約3,000m² 等

工期：2022/10～2026/6(45か月)



トピックス：別埜谷橋が fib※1 の「審査員特別賞」を受賞

✓ 腐食部材を一切排除したPC橋「超高耐久橋梁(Dura-Bridge®)」



施工状況



完成後全景



受賞式

✓ 腐食する部材を排除したPC橋
→ 構造物の耐久性向上
→ 将来の維持管理の負荷低減

ライフサイクルに
おける
CO₂排出量
の削減

⇒ 極めて高い独自性が評価され受賞

※1 fib(国際コンクリート連合/federation internationale du beton)は、
コンクリートおよびコンクリート構造において世界で最も権威のある団体



表彰状

トピックス ZEB/ZEH案件の取り組み

✓ 建物使用時におけるCO2排出量削減に向けて、ZEB/ZEH関連技術開発や顧客提案活動を推進

- ・特に事務所・庁舎、物流倉庫、共同住宅等において、ZEB/ZEH適用案件が増加
- ・省エネと創エネを合わせたエネルギー消費削減率が100%以上となる『ZEB』、『ZEH-M』適用案件を現在施工中(物流倉庫、共同住宅)

【ZEB適用】

山九株式会社東京支店 お台場輸出入センター



発注者 山九株式会社 様

構造 鉄骨造/地上6階

延床面積 約16,000m²

工期 2022年2月
～2023年3月

【ZEH-M適用】

当社社員寮(愛媛県)



トピックス： 揺動制震システム ～実物件に初適用

- ✓ 建物内の制震装置数が少なく平面計画や空間構成への制約が低減
- ✓ 耐震改修にも適用可能で、建物を使いながらの工事も可能

- ・多層階の水平変形を1か所に集約させる機能により、少ない制震装置数で高い制震性能を実現
- ・多層階に架け渡す部材は細いタイロッドのみとなり、外観や採光への影響を低減

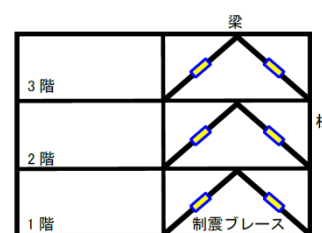
施工状況



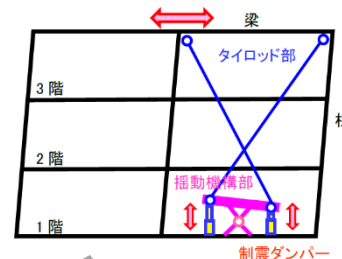
揺動機構・ダンパー部



在来制震(平常時)



揺動制震(地震時)



制震ダンパー数の削減

トピックス： SSTボイドスラブを初適用

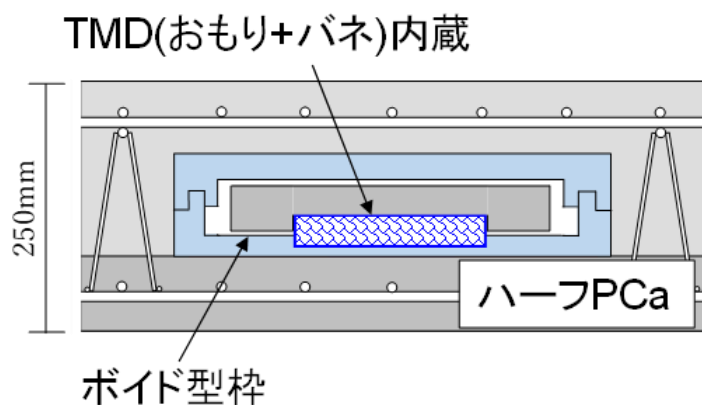
※金沢工業大学、三昌フォームテック㈱との共同開発

✓ 同調質量ダンパー(TMD※)により重量床衝撃音を低減させる新工法

SSTボイドスラブ適用のメリット — 静謐性が求められる住宅への採用に適している

1. 従来工法とスラブ厚はそのまま新工法適用 ▶ 重量床衝撃音の遮音性能が向上
2. 従来工法と遮音性能はそのまま新工法適用 ▶ スラブ厚が薄くなり天井高UP

「SSTボイドスラブ」構成イメージ



※TMD=同調質量ダンパー(Tuned Mass Damper) 振動する対象物に付加した質量体が、床の振動に共振することで振動を抑制する装置

実案件への適用



適用したハーフPCa板

音響測定により

同じ厚みの
ボイドスラブと比べて

7dB

の低減効果
を確認

トピックス：海外事業への取り組み（鉄道整備）

☑ 2013年以降、継続的に海外鉄道整備に取り組んでいる

2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
インドネシア ジャカルタ都市高速															
				ベトナムホーチミン都市鉄道											
					バングラデシュ ダッカ都市交通										
						フィリピン 南北通勤鉄道									
地下鉄								インドネシア ジャカルタ都市高速							
高架橋										フィリピン マニラ首都圏地下鉄					

高架・シールド・駅舎を含む
大規模な土木・建築複合工事

アジア地域での需要増加を踏まえ、
豊富な実績を活かした取り組みを推進



南北通勤鉄道



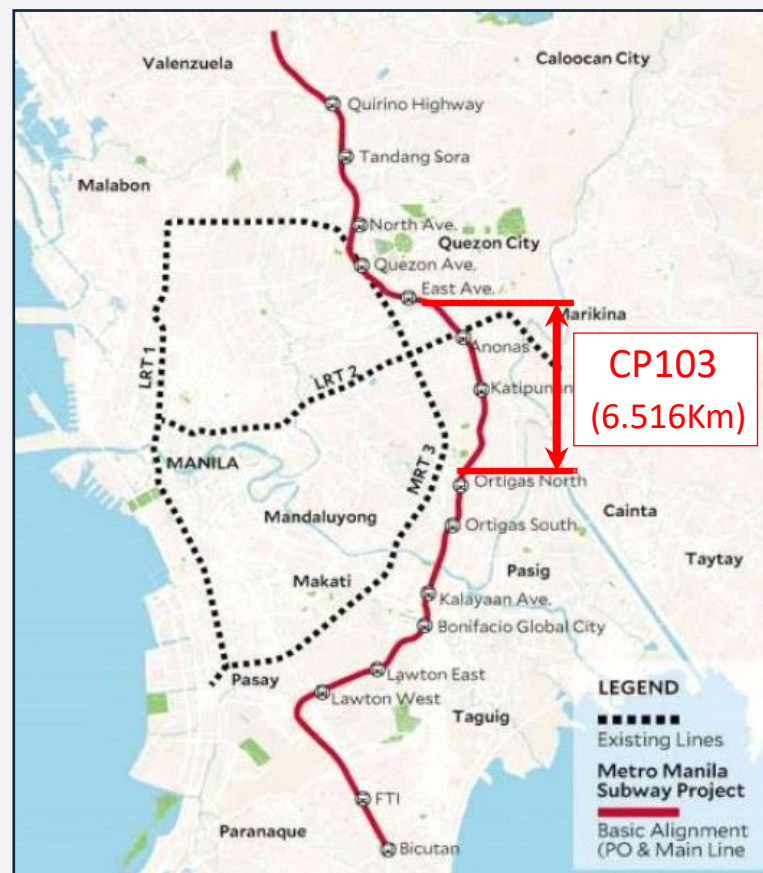
ホーチミン地下鉄

トピックス：海外鉄道事業への取り組み（鉄道整備）

✓ フィリピン マニラ首都圏地下鉄事業（フェーズ1）CP103工区を受注

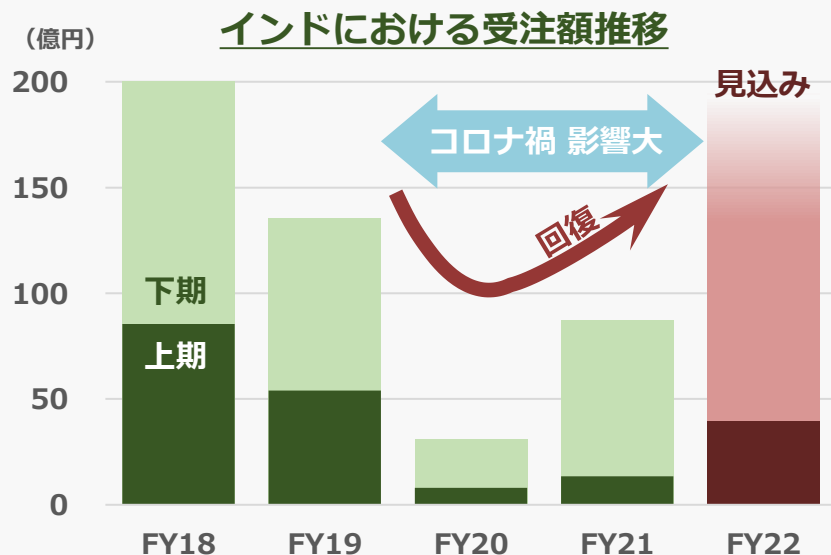
マニラ首都圏地下鉄事業（フェーズ1）CP103工区

- ・ 発注者：フィリピン共和国 運輸省
- ・ 契約金：約657億円（日本円換算）
- ・ 工事概要：シールド、駅舎



トピックス：海外事業における取り組み（建築）

☑ インド市場のコロナ禍からの回復～受注はコロナ禍前水準まで回復の見込み



今期受注の大型案件

マルチスズキ新工場1期工事（パッケージ2）

【計画概要】

- ・施 主：Maruti Suzuki India Limited
- ・計画地：インドハリヤナ州カルコダ
- ・構 造：鉄骨造 平屋（一部2階建て）
- ・建物数：12棟

日系ゼネコンでの建築トップクラスのシェアを維持するインドは当社海外事業における重要拠点

コロナ禍により建設事業が大幅縮小した際も、雇用を維持し人材育成の充実により体制を強化

※ 2020年9月30日リリース

建設市場の回復に対して柔軟に対応

S X (サステナブル・トランスフォーメーション) の取り組み

太陽光発電事業拡大に向けた新たな取り組み

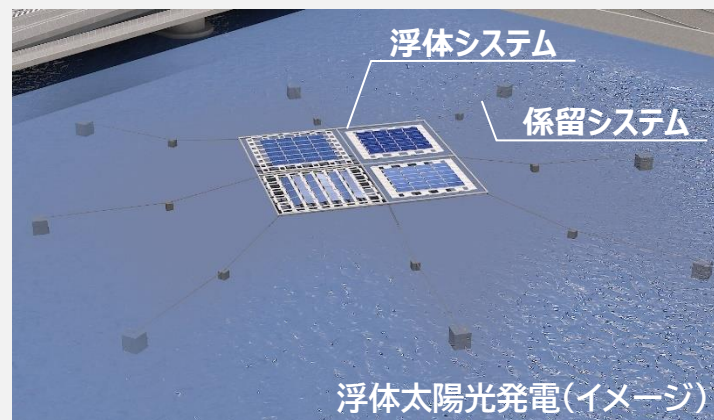
✓ 当社初のオフサイトコーポレートPPA事業^(※1)

- ・自治体所有のため池での発電事業者の公募に選出
- ・経済産業省「需要家主導による太陽光発電導入促進補助金(令和4年度予算)」に採択
- ・2023年 6月より事業開始予定(大阪府:2.8MW)



✓ 洋上浮体式太陽光発電の技術開発

- ・「東京ベイeSGプロジェクト」実施事業に採択
- ・国内初となる洋上での浮体式太陽光発電の技術実証
- ・洋上設置に適した浮体、係留および電気の各システムを開発し、社会実装を目指す



※1 発電事業者と電力の購入者(需要家等)が、事前に合意した価格及び期間における再エネ電力の売買契約を締結し、需要地ではないオフサイトに導入された再エネ電源で発電された再エネ電力を、一般の電力系統を介して当該電力の購入者へ供給する契約方式

S X (サステナブル・トランスフォーメーション) の取り組み

採卵鶏ふんを単一原料としたエネルギー回収技術の開発

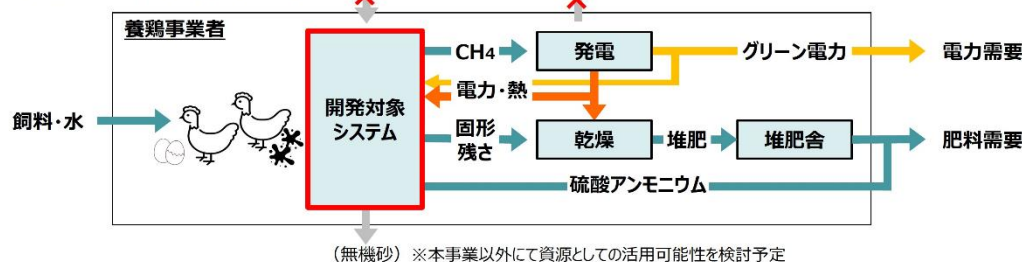
✓ 環境省が実施する「令和4年度地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」に採択

- ・採卵鶏ふんから、グリーン電力の発電が可能なバイオガス(メタン)を回収する技術の実用化・商用化に向けた技術開発・実証実験を実施
- ・「メタン発酵阻害防止技術」や「脱アンモニア」の新技术を活用し、これまでエネルギー回収が困難とされてきた採卵鶏ふんの活用を目指す

【現状(例: 高速堆肥化)】



【将来(鶏ふんバイオガス化)】



代表事業者

三井住友建設株式会社

共同事業者

株式会社 アーセック

株式会社 日立パワーソリューションズ

GPSSエンジニアリング株式会社

創価大学

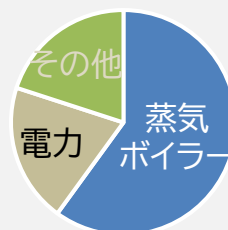
株式会社 タカムラ鶏園

S X (サステナブル・トランスフォーメーション) の取り組み

水素蒸気ボイラーの導入

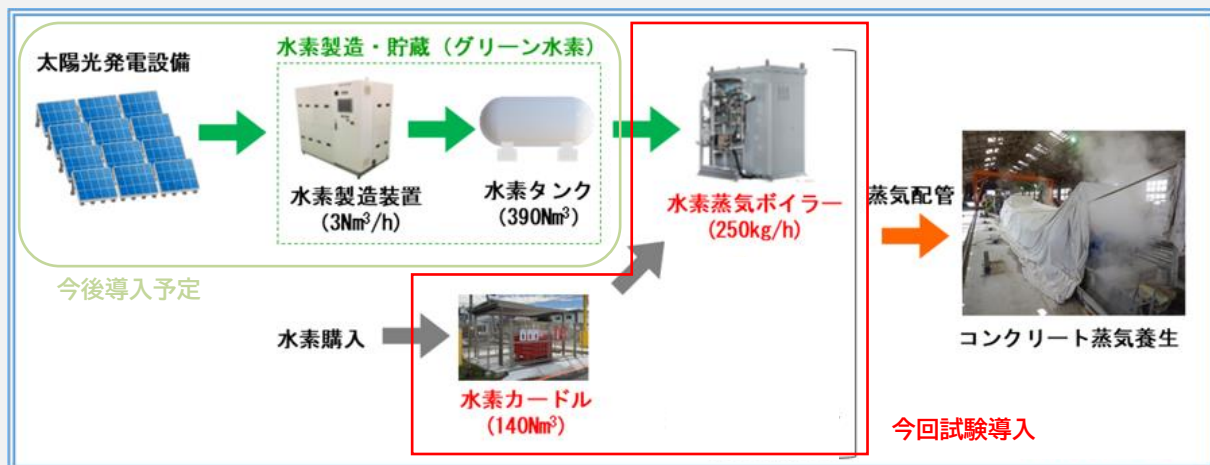
☑ 運転稼働時CO2排出ゼロの水素蒸気ボイラーを自社工場にて試験導入

- ・プレキャスト工場全体での脱炭素化への取り組み
- ・プレキャスト部材製造の蒸気養生において、CO2の排出がないボイラーに切り替え



CO2排出量
工場全体の約6割が蒸気ボイラー

CO2排出ゼロ水素蒸気ボイラーにより
排出量の効果的な削減が可能



DX (デジタル・トランスフォーメーション) の取り組み

工場における生産性向上へのDX技術

✓ Robotaras® II ※1による生産性向上

- 鉄筋供給・配置・結束作業を自動化、担い手不足解消、作業負担の軽減

PC床版配筋組立 2枚/日 必要人数	従来作業	〇〇〇〇〇〇〇〇	6人	生産性
	開発技術	〇〇	2人	3倍向上
		省人化		

✓ SMCスマートメジャー® ※2による生産性向上

- 躯体の出来形の検測から検査、帳票作成までの一連の作業が完全自動化

出来形管理業務における生産性が3倍向上

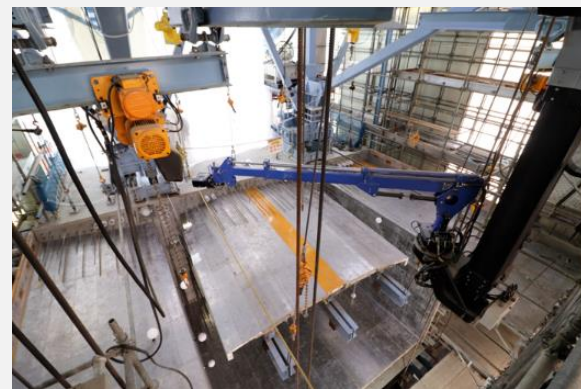


床版製作の自動化



Robotaras® II

出来形管理の自動化



SMCスマートメジャー®

※1 鉄筋組立自動化システム

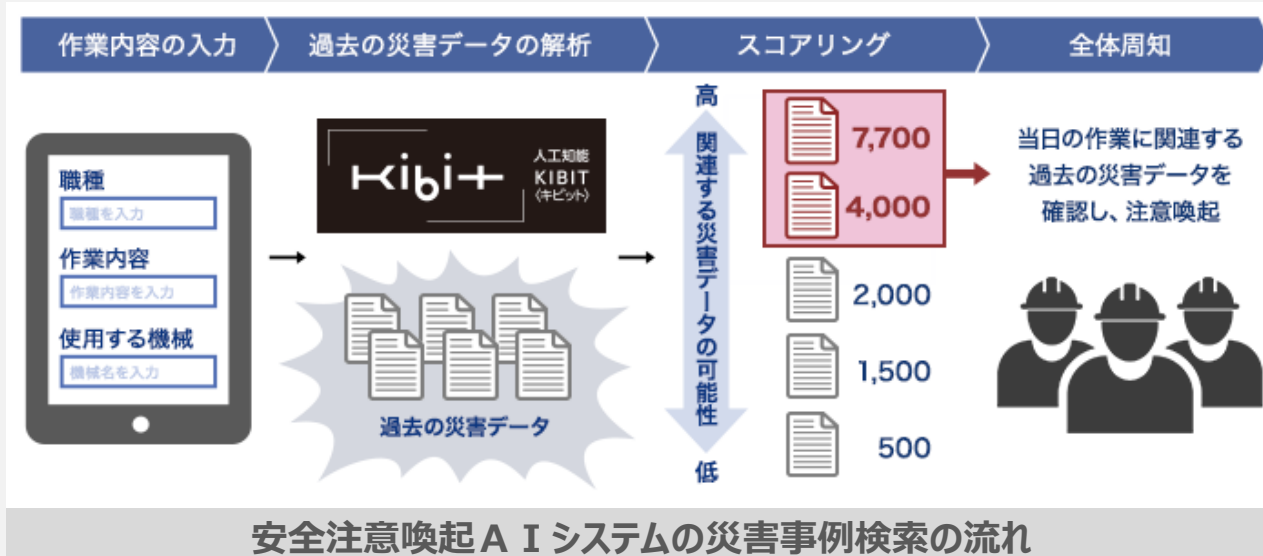
※2 3Dレーザースキャナーを用いた橋梁の出来形検測システム

DX (デジタル・トランスフォーメーション) の取り組み

✓ AI(人工知能)を活用した安全注意喚起システム

- ・実施予定の作業や工事において、過去の災害データ(約6,000件)から起こりうる災害事例を自動抽出するシステム
- ・自然言語AIエンジン「KIBIT[®]」(※1)によって、過去の災害データの状況の類似性をスコアリング
- ・朝礼時の危険予知活動として、当日の各作業内容に即した災害事例の確認が可能
- ・国内の全作業所にてシステム導入済

※1 株式会社 FRONTEO社製



システム活用状況

D X (デジタル・トランスフォーメーション) の取り組み

✓「ラクカメラ®」のデジタル計測技術の活用による省力化などが評価

- ・検測に拘束される時間が3分の1に縮小
- ・汎用的なデプスカメラを活用
- ・日立ソリューションズとの共同開発
- ・JISA Awards 2022(国内)と、ASOCIO Awards 2022(アジア)を受賞



JISA Awards 2022

独創性が高く、国際的に通用するシステムの創造者を表彰



JISA:一般社団法人 情報サービス産業協会

ASOCIO Awards 2022

アジア・オセアニア地域経済の発展に貢献する技術開発および導入において、リーダーシップを発揮した企業を表彰



ASOCIO:アジア・オセアニアコンピュータ産業機構

D & I (ダイバーシティ & インクルージョン) の取り組み

女性の活躍推進に向けた取り組み

✓ 「リコチャレ」(理工チャレンジ)イベントの開催

- ・女子中高生等が理工系分野に興味・関心を持ち、将来に向けての進路選択を応援する取り組みで、当社プレキャスト工場で開催(11月)

✓ 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」※1への参加

- ・ワークライフバランスの実現や、女性はもとよりすべての社員が十分に能力を発揮できるなど、多様な人材が活躍する企業風土の確立を目指す



グローバル人材育成

✓ HDC(自社の教育機関 人材開発センター)の拠点を日本、フィリピン、インドに続き、タイに追加設置

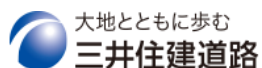
- ・4か国目となるタイに、グローバル人材教育機関を設置し、人材育成の加速、海外事業の更なる拡大を目指す



※1 ジェンダー平等と女性活躍を進めていくための「行動宣言」に沿った企業等の取り組みを加速するための企業経営者等の集まり(事務局:内閣府)



三井住友建設



大地とともに歩む

三井住建道路



三井住友建設グループ

SMCシビルテクノス株式会社



三井住友建設グループ

株式会社 S M C R



SMCテック株式会社

三井住友建設グループ



SMC商事株式会社



SMCプレコンクリート 株式会社



SMCコスモソリューションズ株式会社



Aseismic Devices Co., Ltd.



三井住友建設鉄構エンジニアリング株式会社



ドーピー建設工業株式会社



株式会社西和工務店

お問い合わせ先

経営企画本部 企画部

Tel. 03-4582-3016 Fax. 03-4582-3205

本資料に掲載しております計画、予測または見通しなど将来に関する事項は、本資料の発表日現在における当社の戦略、目標、前提または仮定に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の計画、予測または見通しなどと異なる結果となる可能性があります。